

第2章 沿革

本町に人々が住みはじめたのは、町内に数多く分布する遺跡から約 9,000 年前の縄文時代早期まで遡ると考えられています。南部氏の奥州入部時期については未だ定かではありませんが、鎌倉時代末期までにはこの地に入ってきていたと考えられています。南部氏は室町・戦国時代になると聖寿寺館を中心に北東北の大部分を支配下に治め、東北でも有数の戦国大名に成長します。本町には、南部氏の城館や墓所・霊廟が残されていることから南部藩発祥の地といわれています。

平成 16 年 10 月に旧名川町、旧南部町、旧福地村の 3 町村による法定合併協議会が設置され、合併後の新町のまちづくりのマスタープランである「新町建設計画」の策定等の新町建設に向けた協議を経て、平成 18 年（2006 年）1 月 1 日、3 町村が新設合併し、南部町（なんぶちょう）が誕生しました。

達者村事業は、平成 16 年 10 月に旧名川町において、グリーン・ツーリズム※のモデル事業として始まり、平成 18 年の町村合併後にエリアを広げ、継続して展開しており、6 次産業化など様々な事業を実施しています。

また、全国的にも珍しい取組として、平成 24 年 9 月、鍋を囲むことによるコミュニケーションの機会を増やすために、「南部町笑顔あふれる明るいコミュニケーション推進条例」（通称：鍋条例）を制定し、町全体で盛り上げています。

平成 26 年 6 月 1 日、町民の健康保持のための医療を提供する施設として、昭和 32 年に開設された「国民健康保険名川病院」の移転新築を機に、名称を「医療センター」に変更し、併設する「健康センター」と併せ、保健・医療・福祉の中心的役割を担う拠点施設として開設しています。

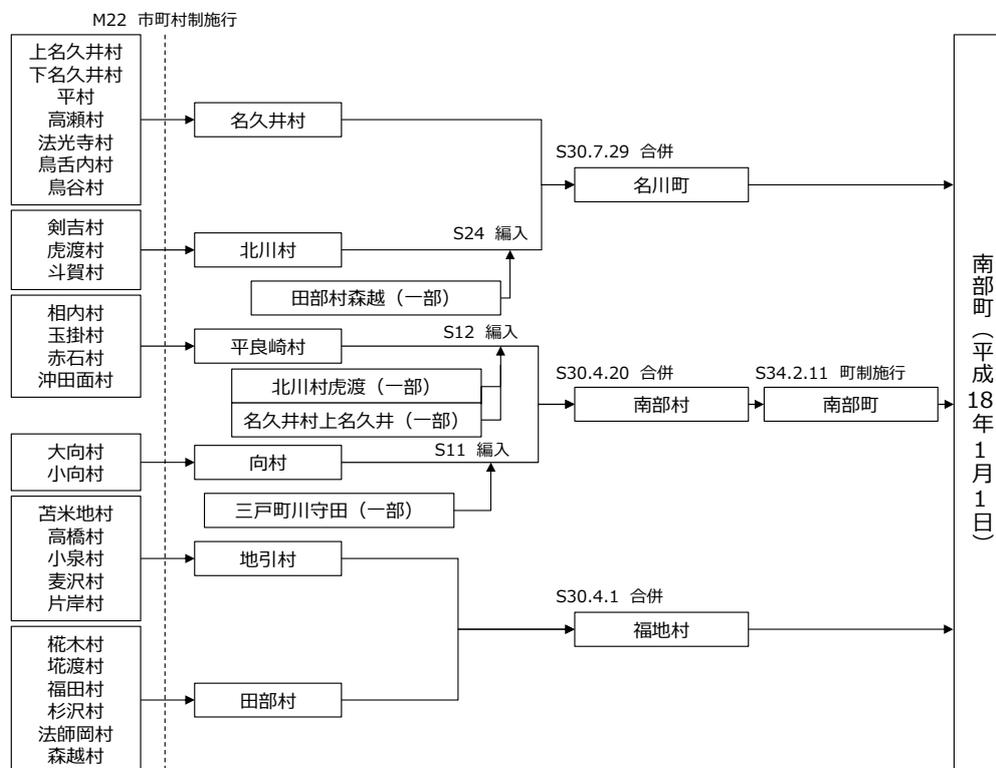


図 4 市町村合併の流れ

※ グリーン・ツーリズム：都市と農村の交流のこと。南部町では、田んぼや畑での農作業体験や、農家などに泊まって、地域の伝統行事や人々のあたたかな心を知り交流を楽しむことと定義している。